

第 15 号議案

茨城県高等学校審議会に対する諮問事項について

社会の変化や生徒の多様化に対応する本県県立高等学校教育の基本的施策を樹立する必要があるので、下記の事項について意見を求める。

記

人口減少をはじめとする様々な社会の変化に対応した活力と魅力ある学校・学科の在り方について

令和 7 年 6 月 26 日提出

茨城県教育委員会教育長 柳橋 常喜

(諮問理由)

教育委員会は、茨城県高等学校審議会の答申等に基づき、県立高等学校改革プラン(2020年度～2026年度)を策定し、中高一貫教育校の設置、学科の改編、学校の統合など、県立高等学校教育の改善・充実に努めているところであるが、今後も人口減少が見込まれることに加えて、社会の変化や生徒の多様化が一層進んでいる状況にあるため、2027年度以降の高校教育改革の方向性を検討する必要がある。

令和9年度以降の次期県立高等学校改革プラン策定に係る県高等学校審議会の開催等について

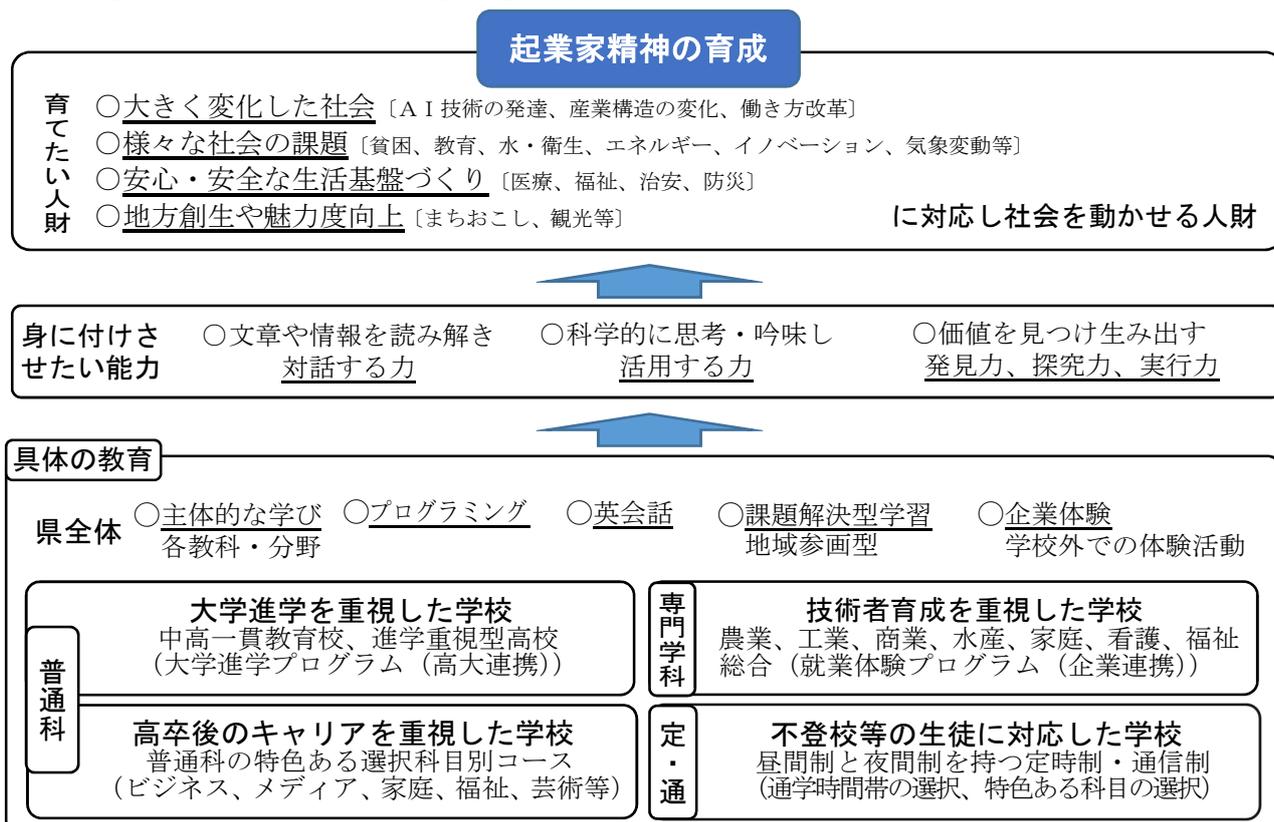
1 現状

(1) 高校教育を取り巻く環境の変化と新たなニーズ

国の動向 (答申等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申) [R3] ・未来人材ビジョン [R4] ・次期教育振興基本計画について(答申) [R5] ・今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会(論点整理) [R6]
社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・加速する人口減少・高齢化 …超高齢社会の進展 ・日本の国際的地位の低下 ・知識基盤社会とグローバル化・デジタル化の進展による社会変革 ・AI技術・ロボティクス等 …Society5.0の実現に向けた科学技術・イノベーションの変革 ・ウィズコロナ以降の経済・産業構造の変化 ・東京一極集中と社会動態による影響
人口の減少 (少子化・社会動態)	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が一層進行 R8→R15(7年間)で中卒者数が約▲3,000人 (R7→R17(10年間)で▲6,000人) ・統合により1校のみとなった市町村の増 (北茨城市、大子町、小美玉市、稲敷市、坂東市、境町) ・学級規模の縮小化：R2→R7(5年間)で1、2学級規模校は5校に増
生徒の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・高校進学率98.6% ・外国人生徒の増(R1:530人→R6:994人 ※私立高校含む) ・特別な支援が必要な生徒、不登校生徒数の増

⇒ 県立高校改革プランの継続、審議会における外部有識者の意見の聴取が必要

(2) 現行改革プラン(R2～R8)における高校教育のビジョン



(3) 現行改革プランにおける改編等の内容

ア 実施プランⅠ期（第1部）[平成31年2月策定]

○中高一貫教育校

- ・より通学しやすい場所に中高一貫教育校を設置
- ・地域課題の解決等を通じた探究的な学び（「起業家精神」）
⇒「地域の中の学校」における中心的役割
⇒地域のリーダー、地域での学びをベースに世界に飛び立つ人財の育成

○対象校等

開校年度	対象校	改編の内容等（丸数字は学級数）
R2年度	太田第一、銚田第一、鹿島、竜ヶ崎第一、下館第一	併設型中高一貫教育校（併設中学校①、併設高校⑥） ※太田第一のみ併設高校⑤
R3年度	水戸第一、土浦第一 勝田中等	併設型中高一貫教育校（併設中学校②、併設高校⑥） 中等教育学校（前期課程③、後期課程③）
R4年度	下妻第一、水海道第一	併設型中高一貫教育校（併設中学校①、併設高校⑥）

イ 実施プランⅠ期（第2部）[令和2年8月策定]

①学科改編

- ・最先端科学技術が集積する環境を活かした魅力ある学校・学科を設置
- ・実践的な教育を行い、新たな価値を創造する人財を育成
- ・つくばエクスプレス沿線地域の人口増加に伴う大学進学ニーズの高まりに対応

開校年度	対象校（改編後の校名）	改編の内容等（丸数字は学級数）
R5年度	つくばサイエンス	科学技術科⑥、単位制、〈化学・生物分野〉1領域、 〈数学・物理分野〉3領域（ロボット・機械領域、電子・情報領域、建築デザイン領域）

※R7年度に、科学技術科③、普通科③に再改編

②多様なタイプの学校の設置

- ・IT分野で活躍できる人財を育成する学校・学科を設置
- ・多様な価値観や学習のニーズ、弾力的な教育課程編成のための定時制課程（昼間2部制）
- ・県内の広範囲から通学可能な高等学校に設置

開校年度	対象校（改編後の校名）	改編の内容等（丸数字は学級数）
R5年度	IT未来	定時制課程IT科②、昼間2部制、単位制

③外国人生徒等への支援

- ・日本語を母語としない生徒の能力を發揮できる教育体制で、地域社会の担い手を育成

実施年度	対象校	主な内容等
R4年度	石下紫峰、結城第一	・外国人生徒等に応じた学習支援、円滑な学校生活のための支援 ・外国人生徒の特例入学者選抜の拡充（40人）

ウ 実施プランⅡ期 [令和6年1月策定]

①統合（機能統合）

- ・対象校が培ってきた特色ある取組（教育活動）を、統合先の学校に継承・発展

実施年度	改編の内容等（丸数字は学級数）				
R7年度	明野	普通科②		真壁	普通科① 農業・環境緑地科① 食品化学科①
	真壁	普通科①、農業・環境緑地科①、 食品化学科①			



②閉課程

実施年度	対象校	主な内容等
R7年度	太田第一（定時制）	定時制課程の募集停止（R9年度末閉課程）

③学校連携型キャンパス制

- ・将来を見据えた学校の活力向上を図るため、統合せずに、近隣の対象校が連携・交流

実施年度	対象校	主な内容等
R7年度	結城第一・鬼怒商業	・遠隔授業、合同での探究活動・学校行事・部活動 ・外国人生徒支援

2 次期改革プランの計画期間等

審議会開催期間	構想対象期間	計画期間	備考
R7年7月～11月 (約5カ月)	10年先 (2035) を見据える	R9(2027)～R15(2033) 基本プラン(7年間) 〔実施プランⅠ期(4年) 実施プランⅡ期(3年)〕	現行改革プランを踏襲しつつ、産業界や地域の新たなニーズ、国の動向や社会の新たな変化を反映予定

⇒ 基本プランで次期構想の基本的な方向性を示し、具体的な実施内容を示す実施プランについては、その後の国や社会の動向を踏まえるため、2つの期間に分けて策定予定

3 次期高校審議会

(1) 期間

R7年7月～11月(約5カ月)

《開催日程(案)》

開催期日		総会	専門部会	審議内容
令和7年度	令和7年7月	第1回		委員長選出、審議計画等
	8月		第1回	参考人意見聴取、協議等
	9月		第2回	
	10月		第3回	
	11月	第2回		答申案検討等

(2) 委員構成

産業経済関係団体	教育関係団体	行政機関	学識経験者	合計	委員の女性比率
4人	3人	2人	9人	18人	50%

(3) 諮問事項

人口減少をはじめとする様々な社会の変化に対応した活力と魅力ある学校・学科の在り方について(案)

⇒ 現行の改革プランを踏襲しつつも、前回審議会以降の、社会の新たな変化などに対応するため、「学校の適正規模・適正配置」「魅力ある学校・学科」「選ばれる県立高校であるための魅力訴求」の3つの視点で改めて意見を徴取

4 スケジュール

令和7年 6月26日 定例教育委員会協議(諮問事項案、審議会委員案)
7月下旬 第1回総会